教育かわら版

こんにちは教育委員会です

ふたたび

No.１７１
令和４年８月４日発行
今金町教育委員会の会
文責：教育長　中山秀悦

学校関係が夏休みに入りました。BA．５に置き換わったオミクロン株はその感染力を発揮しています。ニュースではこの後 BA．２．７５とか･･･。今金町でも感染者は散見されますが、重症化したり集団感染にならないように対策を取り続けなければなりません。



社会教育事業は継続しています。当日２週間前までの健康チェック表の提出をお願いしながら『学びを止めない』その一点で町民対象のイベントや、町外へ出ての体験事業などを進めております。

まさに with コロナ。感染はないに越したことはないのですが、感染者が出たから事業を止めるという短絡的な判断もしません。熟慮します。

＜ my　箸づくり＞

明日は「奥尻キッズ交流会」。去年、今金の子どもたちがお世話になった奥尻町から小学生がキャンプに来ます。文化庁指定の重要な要素の一つである砂金掘り体験も計画されています。

翌日は３年ぶりの今金町民体育祭。第６５回を数えます。感染対策として屋外のみでの開催計画です。これまでと異なり雨天の場合は中止。でも天気予報は大丈夫なようです。しばらく雨が降りません。特産品の今金だんしゃくの収穫には最高の天気でしょうね。

来週末は小中学生対象のドリームバスツアー。北大理学部、砂川子どもの国、そしてルスツリゾート体験です。

お盆の１３日には３年ぶりの今金町成人祭。大人になった子どもたちに会えるのが楽しみです。

７月２９日記



＜奥尻キッズ交流会　砂金掘り体験＞



＜イマカレ　料理教室＞

教育委員リレーエッセイ

『ブックスタート　～赤ちゃんと一緒に～』

今金町教育委員　　船　木　　恵

子育ての方法は時代とともに変化します。それでも、いつの時代においても子どもたちが社会の中で人と関わりながら成長し、大人になっていくことに変わりはないはずです。



私たちの町では２００６年１２月よりブックスタート事業に取り組んでいます。この事業の発端となったイギリスでは、「子ども権利保障」の哲学があります。多様な民族や人種の子どもも、障がいや発達の遅れの有無、家庭の経済的格差に寄らず、すべての赤ちゃんに絵本の経験を保障するという理念から生まれました。

この事業の二か国目となる日本では、「子どもの権利条約」を採択しています。「生きる権利・守られる権利・育つ権利・参加する権利」の４つが子どもの権利となっています。

この権利に則り、私たちの町では、絵本の読み聞かせや遊び体験、子育てに関する地域の情報やお話し会などの催しのお知らせを、３か月児健診の機会に対面形式のもと、手作りバッグ（これも地域の先輩のお母さん方が製作してくれています）に入れ、プレゼントしています。

私自身もその事業を読み聞かせボランティアとして楽しむ一人ですが、この事業でいつも嬉しいのは、初めて会った者どうしでありながら、親として、また、地域（保健福祉課、教育委員会、地域ボランティア、社会福祉協議会、子育て支援センターなどで構成されています）みんなで赤ちゃんの誕生を歓迎し、世代間を超えて、その新しい命の幸せを共有できることです。

最近はお母さんばかりではなく、若きお父さんの参加も見られ、赤ちゃんを見守るその姿は本当に微笑ましいものです。

もちろん赤ちゃんが健やかに育つために医療や福祉が充実することは大切ですが、多様な可能性を持つブックスタート事業を通して、保護者の方の話を聴き、寄り添い、子育てをめぐる問題の予防策の側面も持ちながら、赤ちゃんの誕生と成長を楽しみ、共有できる地域のコミュニティの構築が何より大事なのだと感じさせられます。

絵本は、ともすれば読書への入り口と受け止められることが多いですが、ブックスタートは手遊びや、ちょっとした運動遊び、歌などと同じように、コミュニケーションのツールの一つです。

絵本を使って互いに触れ合えることは、赤ちゃんにとって大好きな人、大人にとっては愛しい肌のぬくもりを感じながらの、愉しく、そして子どもと過ごす心地良さを共に分け合える貴重な時間のきっかけづくりだと感じています。

時代が多忙さと便利な方へ進む今だからこそ、ブックスタートのようなゆっくりとした通い合える時が必要なのかもしれません。

このブックスタートを皮切りに、町民や行政、子どもを取り巻く関係機関が手を取り合って、次のステージにつながることを願っています。



ー参考文献ー

２０２２年３月に実施されたブックスタート交流研修会資料（小笠原志穂氏　作成）